

ハンノキ湿原周辺地域（市有地約2.6ha）が現在に至るまでの経緯

■現在に至るまでの経緯

年月	概要	説明
昭和62年	富来田地区振興整備計画構想	東京湾横断道路、東関東自動車館山道、首都圏中央連絡道路の整備が具現化しつつあることで、都市拠点のポテンシャルが高まる期待から、緑豊かな自然と調和したコミュニティの進展を目的に開発構想があった。
平成元年	富来田リゾートファーム構想（公団）	富来田地区振興整備計画構想から地区全体の基盤として「生産」「リゾート及びレクリエーション」「文化」の3つの柱を基に約50haの住宅地開発を計画するが実行されなかった。
平成4年3月	富来田やすらぎの里構想	自然湧水を生かした水生植物園を主要施設とする『富来田リゾートファーム構想』に基づく自然公園・市民公園の整備として計画されたが、こちらも計画通りに進展はしなかった。 
平成6年	都市計画区域への編入	市外化調整区域に位置づけられた。
平成7年3月	「富来田やすらぎの里構想」を受け、植生等現況調査を実施	富来田地区約7haを調査区域とし、植物や水生生物などの自然資源を把握した。植物では、タコノアシという希少種も確認された。
平成7年10月	いっせんぼく木道の整備 （富来田地区振興協議会の木道設置部会にて協議）	富来田やすらぎの里計画が無くなったが、豊富な自然環境と住民共通の貴重な財産として、潤いとやすらぎのある地域を目指す目的で散策路の一部に木道が整備され、完成セレモニーを開催した。
平成15年	美しい日本「歩きたくなるみち」500選	歴史訪問・文学訪問・自然探勝・里山ウォークのテーマで、歩きたくなる観光ニッポンのイメージを高め、歩きやすい・訪ねてみたい目的で国土交通省後援、（社）日本ウォーキング協会へ応募したところ、富来田「うまくだの路」と称し、富来田駅～武田川コスモス菜の花ロード～町原橋～ハンノキ湿原～妙泉寺～真如寺～黒田林道～真里谷城（木更津市少年自然の家キャンプ場）～大善院の約12キロのコースが選ばれた。
平成21年	散策路整備及び秋に散策路の植物に名札付け	地元有志で散策路約100mの水路の泥上げを重機で行い、泥濘（ぬかるみ）で歩きづらかった路面を解消した。 また、地域住民により町原橋からいっせんぼくまでの約800mの水辺に生息している主な植物に名札付けを行い、散策する方が観察しながらたのしめるコースとなった。
平成24年4月	木更津市みどりの基本計画を策定	いっせんぼく一体の自然再生・管理・自然学習の場として整備する方針
平成27年	太陽光発電として土地活用の提案	みどりの基本計画に基づき、太陽光発電事業者は、富来田地区住民へ自然との共生・自然環境保全に配慮して設置していくことを説明した。
平成29年6月	太陽光発電事業者が市に土地を寄附	『木更津市みどりの基本計画』に位置づけられていたことから、自然公園として市が寄附（約2.6ha）を受けた。

※令和元年の台風被害により、森の一部に倒木竹がみられ、コロナウイルスにより人が集まらない期間があり、木道など荒廃が進んでしまったことから、今回、『きさらづ地域循環共生圏』の創造に向けた取り組みの一つとして、木更津市オーガニックシティプロジェクトとして推進している里山再生部会では、富来田地区にある「湧水いっせんぼく」周辺地の再生プロジェクトを進めております。

■「いっせんぼく」の由来

湧水地「いっせんぼく」という不思議な名前は、その昔にいくつもの湧水がボクボクと湧きあがっていることから、そう呼ばれるようになったとされています。